

「学びにくさのある」児童・生徒のための ICT 活用

1 特集について

一人一人の特性等に伴う「学びにくさ」は、多様かつ個人差が大きく、個別的な対応が必要です。そのため、児童・生徒が示している「学びにくさ」の背景や、その児童・生徒自身が困っていることに周囲が気づき、困難さを理解することが重要です。

そのような児童・生徒の得意なこと、苦手なことを捉えた上で、一人一人に適した支援を充実させるツールとして、ICTは有効です。ICT活用の際は、教員が、児童・生徒のつまづきを把握し、ICTを活用する目的を考え、活用方法を検討することが求められています。併せて、保護者や校内の周りの人への支援に関する理解啓発に努めることが重要です。

このような支援の積み重ねや広がり、将来的に特別な支援を必要とする可能性がある児童・生徒、さらには全ての児童・生徒にとって、分かりやすい授業や過ごしやすい学級をつくる上で役立ちます。本特集を参考に、「学びにくさ」のある児童・生徒のためのICT活用について御検討ください。

2 紙面の活用について

「学びにくさ」のある児童・生徒に対して ICT を効果的に活用するための視点について、**理解することが**できます。

「学びにくさ」の背景、支援の目的、ICTの活用事例を**確認することが**できます。

ICT の活用事例等を二次元コードから読み取り（クリック可）、**参考にすることが**できます。

御意見
ください

所報「たまじむ」において、多摩地区の学校及び市町村教育委員会のニーズに応える特集を予定しております。つきましては、特集内容に関する御意見をいただきたく、御協力をお願いいたします。



特集アンケート

もっと
詳しく
知りたい

<二次元コード（読み取り or クリック）から、
本特集及び過去の所報の解説動画が視聴可能>



解説動画



本特集及び過去の
所報解説動画

「学びにくさ」のある児童・生徒のためのICT活用



過去の所報
「たまじむ」

一人一人の特性等に伴う「学びにくさ」は多様であり、個人差も大きいです。そのため、「学びにくさ」のある児童・生徒は「個別最適化した学び」と同様に「特別な支援」が必要です。また、そのような児童・生徒にとってICTは、彼らの努力だけでは解決できない課題を大幅に減らし、学習活動の本来の目的に集中しやすくするためのツールとなります。本特集では、「学びにくさ」のある児童・生徒のためのICT活用について紹介します。

「学びにくさ」のある児童・生徒に対してICTを効果的に活用するための視点



ICTを使うことが目的ではなく、ICTを活用した授業を通して、児童・生徒が**何を学ぶか、何ができるようになるか**を大切にしましょう。

- ✓ **何がうまくいっていないのか**
- ✓ **何を目的としているのか**
- ✓ **どのようにICT活用するのか**

参考 特別支援教育&ICT活用に関わる資料

令和6年10月24日発行
所報「たまじむ」通算第106号
通常の学級に在籍する
障害のある児童・生徒
への支援



令和5年8月2日発行
所報「たまじむ」通算第96号
通常の学級と特別支援教
室との連携・協力による
指導や支援の充実



令和4年6月15日発行
所報「たまじむ」通算第86号
各教科等の学びの過程に
おいて考えられる困難さ
に対する指導の工夫



平成29年3月東京都教育委員会
ICT機器の活用事例集
児童の学習上の困難さ
を改善するために



※ 枠内の事例等は、全て一例として示しています。

「学びにくさ」の背景

読むこと

- 語彙が少ないため、文中から単語を認識することが難しい

聞くこと

- 抽象的な表現を理解することに困難さがあるため、具体的に理解することが難しい

計算又は推論すること

- 文字や数字の情報からだけでは、数の動きをイメージすることが難しい

書くこと

- 文字の形を捉えることに困難さがあり、正しく文字を書くことが難しい

伝えること

- 自分の考えや要求を言葉で伝えることに困難さがあるため、相手との意思伝達が難しい

支援の目的

情報を収集・整理

- 正しく読めるようにする。
- 熟語の意味をイメージしやすくする。
- 内容を理解しやすくする。



体験したことや考えを表現

- 正しい形で漢字を書く。
- 学習のまとめを記録する。
- 表現の手段・方法を広げていく。



ICT活用

保護者や校内の周りの人への
理解啓発に努めましょう。

ICT活用の
詳細はこちら

聞く



電子書籍を活用し、音声読み上げによる「音」の補助を行う。



見る

音に合わせて文字を追うことができるよう、読み上げている箇所が視覚的に分かるようにする。

見通す



1日の流れや学習活動の時間配分について、視覚的に確認できるようにする。



イメージする

数や量の動きや文章の内容等の動画を確認できるようにする。

写す



タブレットPCを活用し、手本を拡大して、手元で確認できるようにする。



入力する

アプリを使用し、音声やキーボードで入力できるようにする。

伝える



アプリを使用し、感情等を表すシンボルをタッチすると読み上げるようにする。

教員は、様々な**ICT活用についての知識を高め**、児童・生徒の「学びにくさ」に対応した指導を行うことが重要です。